

製品名: A2M (2T11) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe06369**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	163kDa

抗原情報

遺伝子名	A2M
別名	A2m; Alpha 2M; Alpha-2-macroglobulin; C3 and PZP-like alpha-2-macroglobulin domain-containing protein 5; CPAMD5; FWP007; S863 7;
遺伝子 ID	2.0
SwissProt ID	P01023
免疫原	ヒト α 2 マクログロブリンの合成ペプチド

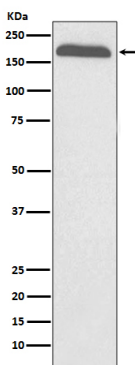
背景

$\alpha 2$ マクログロブリンはプロテアーゼ阻害剤であり、サイトカイントランスポーターでもあります。トリプシン、トロンピン、コラーゲナーゼなど、多くのプロテアーゼを阻害します。A2Mは、 β アミロイド沈着物の主成分である $A\beta$ の除去と分解を媒介する能力があるため、アルツハイマー病 (AD) に関与していると考えられています。独自の「捕捉」機構により、4種類のプロテアーゼすべてを阻害することができます。このタンパク質は、「ベイト領域」と呼ばれるペプチド鎖を有し、この領域には様々なプロテアーゼが特異的に切断する部位が含まれています。プロテアーゼがベイト領域を切断すると、タンパク質の構造変化が誘導され、プロテアーゼを捕捉します。捕捉された酵素は低分子量基質に対しては活性を維持しますが (高分子基質に対する活性は大幅に低下します)、ベイト領域での切断後、チオエステル結合が加水分解され、タンパク質とプロテアーゼの共有結合が促進されます。

研究分野

補体と凝固カスケード;

画像データ



ヒト血漿溶解物中の A2M 発現のウェスタンブロット分析。